



マルチ人間のプチ・ボラまちづくり

江戸川総合人生大学 江戸川まちづくり学科 学科長

佐谷 和江



2004年に江戸川総合人生大学がスタートする時、「まちづくりの学科を担当してもらえないか」と話がありました。

それまでに、まちづくりの講座を何度かやりました

が、短期的なものだったので成果が見えづらく残念に思っていたところでした。総合人生大学は体制や期間などが本格的で、大変やりがいがありました。

ところで、「まちづくり」とはどういう意味でしょうか？文字どおり「まちをつくる」という意味ですが、それ以上の明確な定義はなく、辞書に載っていない言葉です。

私なりに、行政主体で実施する「都市計画」とは違い、地域住民が中心となって住みよいまちをつくっていくこと、と解釈しています。つまり、まちづくりには、地域住民の関わりが不可欠なわけです。

しかし、一般的には関心が低いのが現状です。そのよ

うな中、まちづくりに関心ある人たちが集まってくれるということにワクワクしました。

また、ボランティアだけでなく、NPOなどの一種の仕事として「まちづくり」をする人たちも出てきてくれればいいなあと考えました。

仕事だと一日8時間200日で年間1600時間、ボランティアなら月10時間、12ヵ月で120時間、パワーやノウハウの蓄積からみて、仕事として関わる人を増やしたいと思ったのです。

5年経った現在、当初のやりがいやワクワク感はそのままですが、「ボランティアと仕事」についてはかなり認識が変わりました。

江戸川まちづくり学科の皆さんは、趣味・家事・介護・仕事・地域活動など、多彩な生活の一コマにまちづくりがあることと、一人一人の人生経験やネットワークを活かせば、ボランティアでもかなりのパワーがあるということです。

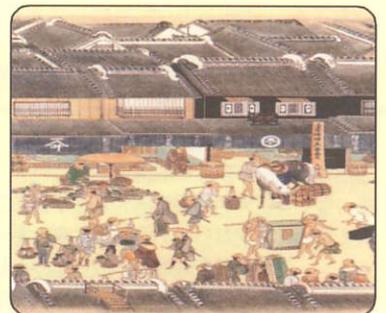
「マルチ人間のプチ・ボラまちづくり」なんですね。ややオタク的にまちづくりに関わっている身としては新鮮ですし、今後の展開を楽しみにしています。

授業紹介 選択科目「江戸・下町学」がスタート

故きを温ねて新しきを知る。「江戸時代から学ぶ」これがこの講座のねらいです。江戸時代への関心が高まるにつれて、往時の庶民の暮らし向きがいかにエコロジーに徹し、リサイクルを基調とした社会であったか、近年明らかにされてきました。

そして世界にも類を見ない識字能力の高さには目を瞠るものがあります。現代に生きるわれわれが今お手本とする社会が江戸にあったのです。授業の中では何よりも知ることの楽しさを味わいながら知識の幅を広げていきます。

八っつぁんや熊さんも登場する庶民の哀歓がただよう長屋の人情噺からも、向こう三軒両隣の助け合いの精神が脈々と伝わってきます。ベテランの講師陣による講義で「江戸の庶民社会」を浮き彫りしていきます。



地域のために自分を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな人のために江戸川区が開設した区民のための大学です。現在、1年生と2年生合わせて約180名の学生が、熱心にそれぞれの目的や課題に向けて授業に取り組んでいます。（*学校教育法等で定める正規の大学ではありません。）

地・域・と・つ・な・が・い

江戸川まちづくり学科 4期生が一年間学んだこと

4期生に「1年間で学んだことを伺いました」

『入学動機が似ていても、多様な生き様をしてきた私達の間でボランティアへの認識のズレ、或いは活動の軸足の違いに悩んだこともありましたが、出会いの素晴らしさを知り、学びを通して新鮮な知識を得る、一つ一つの現地研修を通じて、社会を洞察する力や新たな実践力を身につける等々の満足感が出つつあるのが

現状です。そして今後の社会活動を実践する糸口が少々だが見えはじめ、それが生きがいを与えてくれるのかもしれない。

まちづくり学科では対象が広く焦点を絞りにくいようですが、寺子屋をつくり鍵っ子に愛を、劇団でも立ち上げ心の豊かさをとか・・・プランニングが沸々と提案されるようになりました。5期生には、出会い、体験を通じてしっかり学んでいただきたいと思います。本当に様々なことが見えてきますよ。考え方の違いから何度か辞めようと思った偏屈男でも言

うのですから間違いなしです。交流を深めつつお互いを知るのも楽しく有意義ですね。昼、夜の会食/飲み会は距離を縮め、肩の力が抜けて新たな知恵や発想が生まれてくるので、お奨めです。当大学では先輩と気楽に話をしたり、学科を越えて自由闊達に交流できる土壌があり、そこにもヒントの山がありますね。』

(取材：江戸川まちづくり5期生 相本&笹原)



国際コミュニティ学科 一年の学びを終えた4期生に聞く

早いもので私たち5期生は無我夢中で3か月が過ぎました。自分自身の勉強の方向も定まらないまま、慌ただしく時が過ぎたという感じです。丁度、この時期に4期生が学科のイベントとして『Let's enjoy!』を企画・開催しました。大変良い機会ですので、今後の学習の参考にする為にイベント終了後に4期生の川瀬、中嶋両先輩に一年間を学び終えた後の感想と5期生に対するアドバイスを伺いました。

両氏とも自分のやりたいことの方

づけができるようになったのは、夏休みに毎週1回、殆どのクラスメイトが自主登校をして大学祭に備えた頃からで、この事によってクラスメイトの各々の得意な面が分かり、グループ毎の発表も良いものが出来、クラスも大きくまとまったそうです。また今ではお互いの連帯を強める為に情報の交換を密にしており、インターネットの掲示板の利用、毎授業後に



のコミュニケーション、飲み会など活発に行われています。

5期生へのアドバイスとしては、クラスメイトや先輩、課題研究やフィールドワークで知り合った方々との連携やネットワークを大切に行動する事。今回のイベントも個人や課題研究での人脈、3期生の協力が大変大きかった。また、チームワークを大切にし、お互いの足りない部分を補い、成果を上げてほしいとのお話でした。

私たち5期生はこれらを参考にして、今後の学習に活かしていきたいと思います。

(取材：国際コミュニティ5期生 杉山・細谷)

えどがわエコセンター 第3回もったいない運動えどがわ区民大会

実施日：平成21年3月7日(土)

会場：タワーホール船堀

主催：特定非営利活動法人えどがわエコセンター・江戸川区

内容：ごみを減らし、資源やエネルギーを大切に使う工夫をした家庭や事業所を表彰し、取り組みを発表。あわせて、北野学長より「もったいない宣言」と題してご講演いただきます。

① “もったいない” 発表

会場：タワーホール船堀5階・大ホール

時間：13時45分～16時

参加：予約制です。えどがわエコセンター(5659-1651)にお問い合わせください。

② “もったいない” 展示会

会場：タワーホール船堀1階・展示ホール1

時間：10時～16時30分

参加：申込不要。直接会場へお越しください。

内容：

●プロが教える！暮らしに役立つエコの知恵(掃除・洗濯・省エネ)

●はじめようエコ！体験コーナー

(はし袋作り、風呂敷結び、ごみ分別ゲームほか)

●CD/DVDリサイクル回収BOX設置



地・域・へ・広・が・る

子ども支援学科 5期から4期に質問！

子ども支援学科ではどんなことを学ぶのでしょうか？子どもの発達・家族・取り巻く環境について広く授業があり真剣に学んでいます。学生生活に慣れてきたところで、4期の皆さんに質問です。

1年間学んできて、広い意味で「子ども」について何を感じましたか？

子育て支援の現場を見たり聞いたりすることで他人や自分の子どもに優しくなった。兄弟が多い子はたく

ましくて役割分担が自然と出来ている。

ご自身の事に重ねたお答えもありました。子育て真っ最中の方、4期にもいらっしゃるんですね。意見交換の時など参考になる意見がたくさん出ます。子育て中の方、子育てが一段落した方、お孫さんを思いながら・・・いろんな方が一緒に学ぶ事で様々な意見がでます。そして多くの出会いがあります。

今後について意気込みを伺いました。

1年目の学びだけでは知識の在庫が少ない。もっと子育てサポートの現場に出て知識を吸収したい。

*子どもに戻ってボランティアに励む。

*いろんな人を巻き込み（学習支援など）社会参加をしたい。

子どもたち、そして親子を取り巻く環境は様々です。その中でほっとするひとときを多くの方とご一緒できるよう、学び・活動を重ねていきたいと思います。どこかで皆さんとお会いするかもしれませんね。その時はよろしくお願ひします。

(取材：子ども支援学科5期生
小杉&牧野)



介護・福祉学科 はじめの一步〜♪教えて先輩〜♪

入学式から早数か月経過、右も左も？のまま、諸先輩方に質問、回答を頂きました。

40時間の社会活動体験について
・体験先はどのように決めましたか
ボランティアセンターや先輩に尋ねたり、見学したりして決めました。

・どのようなことをするのですか
「話し相手」「湯茶・散歩・食事・手芸・工作の準備や補助」「清掃・シート交換・洗濯物のたたみ」「ドライヤー掛け」の他「体操・音読・カラオケ」は一緒に行いました。

体験で感じたことは

まず利用者さんの名前を覚え接することが大事だと思います。スタッフの手が足りず要望に答えられないことがある。若い職員の方達の懸命さに感動。

一番楽しかった(心に残る)授業は『このゆびと一まれ*惣万佳代子代表』・実戦力と共生ホームの魅力。『夢の湖舎*藤原茂理事長』・介護予防は生きがいづくり。『カウンセリング/回想法』等。

一年目の後半(大学祭に向けて)は、
如何でしたか

大変ではあったが、各々個性を発揮し目標に向かって協力し合えたこと

は貴重で充実感と結束が更に深められました。

5期生への助言等

年が明け、梅の花が咲き始めた頃から、もしかして、頑張れるかもと思いました。大切な何かを見つけられますよう、授業もその他も楽しんでください。



【第3回大学祭 介護福祉学科4期生】
(取材：介護・福祉学科5期生 木元&宮道)

ボランティアセンター ご存知ですか？ボランティア保険

ボランティアセンターでは、ボランティア活動中のケガや事故に備えるための「ボランティア保険」の受付を行っています。ボランティア保険は、国内のボランティア活動中・往復途上の事故により、ボランティア自身が被ったケガに対する補償(傷害保険)と、他人に対して損害を与えた場合の補償(賠償責任保険)がセットになった保険です。保険の適用事例で最も多いのは、往復途上の自転車による事故でケガをする事例です。ボランティア活動を安心して行うために、ボランティア保険に加入することをお勧めします(加入は任意です)。

ボランティア保険は年度保険(受付翌日から3月31日まで適用)で、掛け捨てです。保険料は平成20年度の場合、300円から1,400円まで6プランがあり、ボランティアセンターに登録した団体・個人には保険料の一部(250円)を助成する制度があります。

【問い合わせ先】ボランティアセンター 電話：5662-7671

江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス新館1階

ゴスフォード市を訪問して

昨年9月17日から一週間、江戸川総合人生大学OB有志8名が、江戸川区と姉妹都市であるオーストラリア・ゴスフォード市へ多田区長のメッセージを携え、表敬訪問しました。

ゴスフォード市は1988年に区と盟約を結んだ姉妹都市で、シドニーから北へおよそ80キロ、車で1時間の位置にあり、深い入り江に囲まれた風光明媚でのんびりしたリゾート地。面積は江戸川区の2.1倍。人口は、16万人。

訪問されたメンバーの一人：吉田英雄さん（国際コミュニティ学科2期生）にお話を伺いました。

「ゴスフォードを訪問されたきっかけは何ですか。」

「同じクラスの高橋陽子さん（ホームステイ交流会＝リボンクラブ代表）の呼びかけで参加しました。高橋さんは、ホームステイ交流の経験が豊富で、今回も区の担当部署の協力を取り付けていただき、実現しました。」



ウオーターフォード・リタイアメントビルに於て

「ゴスフォードでの交流の様子を教えてください。」

「予定していたスケジュールどおり9月19日、シドニーからレンタカーで先ず「ウオーターフォード・リタイアメントビル」を訪問。女性の皆さんは和服のいでたち、日本舞踊と空手の形を披露。その後、直ぐトニー・セイタムさん宅へ。そこでは豪華な手作り料理の昼食が用意され、姉妹都市協会関係者が揃っての歓迎に大感激でした。暫し歓談後、市庁舎へ。にこやかに出迎えて頂いた市長から歓迎のスピーチ。続いて私が区長のメッセージを読み上げ手渡しました。多忙中を市長自らの心温まる歓迎には大感激でした。また、マーガレット・ハーディさん（姉妹都市協会事務局長）に市内案内までしていただきました。」



ゴスフォード市長と

「ゴスフォードでの交流を体験されて、いかがでしたか。」

「行く先々で真心のこもった歓迎に、大変感動しました。新たな出会いと貴重な体験をさせていただき感謝感激です。本学の皆さんにも是非お勧めしたいですね。」

（ゴスフォード訪問者）

介護1期：皆川栄子、国際1期：中村徹子、同2期：高橋璋年・高橋陽子・田中清子・皆川浩一・吉川和夫・吉田英雄

（取材：国際コミュニティ学科4期生・秋元&5期生・細谷）

先生を紹介します

子ども支援学科
友野清文 先生



江戸川総合人生大学との関わりは、たまた息子と同級生のお母さんが設立準備委員をされていて、その人から子どもコース（現：子ども支援学科）の講師を探しているという話を聞いたことに始まります。

その時はどのようなものなのか見当がつかせませんでした。2004年の夏の盛りに授業案を持って区役所の設立準備室に伺ったことを思い出します。

1・2期生の授業ではお互いに手探りでしたが、20代から70代の様々な人生経験を持つ学生さんと出会うことができたことが、私にとっての財産です。有志の方と積極的に子育て支援施設の見学に出かけたことも良い勉強になりました。

昨年、大学は5期生を迎えました。何より嬉しいのは、授業の中で卒業生の活躍を紹介できるようになったことです。活動をするには、熱意とともに冷静に現実を判断する力や人間関係を作る力が必要です。

今後とも学生さんと一緒に子育て支援活動のあり方を考え、卒業後に各々が自分なりに活動できるよう努めていきたいと思っています。

同窓会の窓

10月29日、第3期卒業生を迎えて開催した、第2回総会・懇親会は、同窓生の絆も一層深まり、会員212名がパワー満開となりました。今年度は専門部会を編成し、会の運営をよりきめ細かく充実させたいと考えています。まずは会費納入方法のひとつとして郵便局口座を開設しましたのでご利用ください。詳しくは、2月発行の「同窓会便り2号」または同窓会HPで。

3月28日の「東アジア長寿社会国際シンポジウム」にも参加予定。生涯学習を通して地域に根ざす活々とした活動を目指し、在校生のみならずと卒業生をつなぐ架け橋としての役割を担えるよう努力してまいります。今年も一層のご支援、ご協力をお願いします。

★イベント・サークル情報★区民の皆様のご参加をお待ちしております

催し	日時	会場	費用	主催・お問い合わせ・内容
江戸川ミニディホスピス研究会	2月23日(月) 3月23日(月) 4月27日(月) 13時～16時	タワーホール船堀305号室	200円	博多 TEL 03-3658-0155 FAX 03-5693-0021
葛西の寄り合い所 杜の会	2月18日 3月4日・18日 4月1日、15日(水) 13時～15時	西葛西5-7-8 第二ドミール森田404号	200円 材料費別	石井 TEL 080-1049-3310
夢ぼすと ホットできる居場所	2月22日(日) 13時～15時	東葛西コミュニティ会館	200円	一木 TEL 03-3878-9930
江戸川総合人生大学学生・卒業生による朗読会	3月21日(土) 第14回 10時30分～11時40分	タワーホール船堀 3階応接会議室	無料	堀川 TEL 03-3679-4357
はじめてみよう園芸福祉	2月19日(木) 18時30分～20時30分	タワーホール船堀 4階 研修室	無料	先着順 70人・FAXにて受付 花ステーション研究会 高木 03-5668-5396
楽しい中国語講座	毎週木曜日 10時～11時30分	北小岩コミュニティ会館	600円	日原 TEL/FAX 03-3675-6046
東アジア長寿社会国際シンポジウム	3月28日(土) 10時～17時 (展示は14時迄)	タワーホール船堀 太陽の間	無料	江戸川区、(社)エイジング総合センター、高齢社会 NGO 連携協議会、東アジア地域人口高齢化専門家会議
江戸川ガイドグループ (親水公園探索)	4月上旬	小松川境川親水公園周辺		渋谷 080-3409-0468

「ひと あい えどがわ」編集委員

【3期生】晝間樹、竹重真紀子(江)高島卓、矢作弘子(国)高森敬子、渡邊住保里(子)松岡滋子、植草良子(介)

【4期生】熊谷吉光、寺久保好子(江)秋元直美、木村裕子(国)住谷信夫、矢放幸子(子)勝倉洋子、川端慶子(介)

【5期生】笹原喜代司、相本直樹(江)杉山力、細谷久子(国)小杉裕子、牧野久恵(子)木元和子、宮道益江(介)

編集記事に関するお問い合わせは、大学事務局まで 電話：03-3676-9075

編集後記

この情報紙が、地域への紹介と同時に大学に関わるすべての人々を結びつける役割を果たすこと、そのための編集に多くの方が積極的に参加して下さることを祈るとともに、編集作業の中で熱い時間を共有できたことに感謝します。(編集長 松岡滋子)

素敵な情報をお待ちしています!